

(3) 高等学校における実践例

校種・学年	高等学校・1年	教科・領域	普通教科「情報A」	配当時間(本時)	4/5
単 元 名	情報の収集・発信と共有				
目 標	情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題を知り、その問題を解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えることができる。				
情報活用能力の到達目標	- 署名を付けた電子メールを送信したり、To, CC, BCC を使い分けたりすることができる。【A-9 ※14 頁参照】 - 個人情報の保護の重要性と個人の責任を意識したうえで、情報を送受信しようとする。【C-2 ※20 頁参照】				
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点及び評価の観点	三つの観点における指導のねらい	
導入	1 受信者が不快に思う電子メールはどのようなものであるか考える。	5分	実際の電子メールを使って、どのようなマナー違反があるか考えさせる。 (評価) 【関心・意欲・態度】 関心をもって主体的に授業に取り組もうとしているか。		
展開	2 送信された電子メールを読んで、感じたことを電子メールで作成し教師に送信する。 3 CC機能, BCC機能の使い分けについて考える。 	35分	- CC機能, BCC機能を用いた二通りの電子メールを全生徒に送信する。 - CC機能を用いて作成した件名や署名がない電子メールを送信する。 ※ どのような内容が相手を不快にさせるか電子メールを利用して回答させる。 - 署名・件名が付いたメールをBCC機能を用いて送信する。 (評価) 【思考・判断】 どのような電子メールが受信者を不快にさせるか自分なりの考えをまとめることができたか。 - 送信した二通りの電子メールの作成方法を説明する。	- 個人情報の保護を意識して電子メールを送信することができる。【情報社会に参画する態度】 - 署名の無い電子メールを送受信することにより、署名を付けることの大切さを知る。【情報社会に参画する態度】 - CC機能とBCC機能を使い分けて電子メールを送信することができる。【情報活用の実践力】 【情報社会に参画する態度】	

展開	4 指定された相手に電子メールを送信する。 		CC機能, BCC機能のいずれかを使って, 教師からの電子メールを指定した相手数名に送信させる。 (評価) 【技能・表現】 CC 機能と BCC 機能を使い分けて電子メールを送信することができたか。	【情報活用の実践力】
終末	5 電子メールの内容から, CC機能, BCC機能のいずれで送信すればよいか考える。	10 分	具体的な電子メールの送信内容についてアンケート機能を利用して提示し, 回答させる。 (評価) 【知識・理解】 To 機能, CC 機能, BCC 機能の使い分けについて理解できたか。	

考察

本時は「個人情報の保護」と「情報モラル」についての知識を身に付けることによって「情報社会に参画する態度」を育成して, 電子メールを正しく発信できる「情報活用の実践力」を身に付けることをねらいとした。

授業の導入において教師のコンピュータに送信されている電子メールの中で, 「件名」と「署名」が無い電子メールとマナーを守って送られた電子メールを提示し, 比較させたところ, 生徒から受信者が不快に感じるような電子メールを送信してはならないという意見が多く聞かれた。

展開において, 「定期考査の成績連絡」という件名の電子メールを CC 機能と BCC 機能を利用して送信し, 送信内容について検討させた。

次に, 同時送信する内容の電子メールを複数例示し, CC 機能または, BCC 機能を使って, 指定した相手(生徒のアドレス)に電子メールを送信させ, メールアドレスの表示の違いに気付かせ, 個人情報の保護の在り方について確認させた。

終末では, 複数の課題を用いて, メールを送信内容により CC 機能または, BCC 機能のいずれを使った方がよいのかをパソコン教室内のアンケート機能を利用して質問し, 集計結果を基に, 自己評価を行わせた。

本校では, 情報活用能力の育成を目標に, 「情報の科学的な理解」や「情報社会に参画する態度」を深めながら「情報活用の実践力」を図ることが大切であると考え, コンピュータ教室において電子メールを利用した学習を行っている。

学習内容としては, 電子メールのアカウントの設定, 電子メールはメールサーバを経由するということ, アカウントの入力を間違えると電子メールが送受信できないこと, 電子メールに書かれていたアドレスをクリックすると危険なサイトにリンクしてしまう場合があることや, 電子メールに大量のファイルを添付して送った場合, サーバに負担がかかり過ぎて相手に電子メールが送信できなくなることがあるなど, 体験を通した学習を行っている。

普通教科「情報」は, 高等学校における情報教育の中核となる科目であり, 本校においては1年次で学習することになっている。しかし, 情報通信ネットワークにおける様々な諸問題に適宜対応していくためには, 学校全体での情報教育の推進を図る必要がある。今後は, 普通教科「情報」を中心としたすべての教育活動における情報教育に関する全体計画を早急に立案しなければならないと考える。